

第120回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の噴火活動は低下してきています。しかし、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりには深部からのマグマの供給が続いており、マグマだまりから新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば、噴火活動が再び活発化する可能性があります。

霧島山（新燃岳）では、1月26日から本格的なマグマ噴火が始まり、多量の火山灰等を放出する噴火活動があり、火口内に溶岩が噴出、爆発的な噴火が繰り返されました。

新燃岳の噴火は、2月中旬以降、最盛期に比べ規模や頻度は低下しながらも4月18日まで続きましたが、それ以降は発生していません。新燃岳直下のマグマの動きを反映していると推定される山体がわずかに膨張して元に戻る傾斜変化も5月1日以降見られなくなり、浅部の火山性地震の回数も5月以降はやや減少しています。

また1日あたりの二酸化硫黄の放出量も数百トン以下と少ない状態で経過しています。

一方、GPS観測によると、1月26日から2月1日の本格的なマグマ噴火に対応して急激に収縮した新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりは、現在も2009年12月以降と同程度の割合で緩やかな膨張を続けています。

新燃岳周辺の地震活動には、顕著な変化は認められません。

以上のように、新燃岳の噴火活動は低下してきています。しかしながら、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給は続いています。マグマだまりから新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば、噴火活動が再び活発化し、1月下旬から2月上旬の本格的な噴火に匹敵する活動を再開することも考えられます。

引き続き、2月中旬以降発生した程度の爆発的噴火の可能性はありますので、新燃岳付近では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報にご注意ください。